



先の見通しをたてて計画的に！！



みんなで取り組もう！業務改善！！



「佐賀県における公立小中学校事務の共同実施」

佐賀大学文化教育学部研究論文集 第19集第1号より

佐賀県教育委員会 副教育長 中島 秀明

佐賀大学 文化教育学部 教育学・教育心理学講座 准教授 川上 泰彦 / 共著

上記の論文は、「1.はじめに」～「5.おわりに」までの5章で構成されており、佐賀県における「共同実施」制度の検討過程・導入過程を明らかにしたうえで、その効果・課題についての指摘が書かれています。今月号では、1章を紹介します。

「1.はじめに」では、義務教育現場の今に触れ、そこに生じた様々な政策・課題が書かれています。

地方分権改革

学校の自主性・自律性確立

教職員の多忙化

教職員のメンタルヘルス改善

学校組織マネジメントの中で対応することを要求

背景

校長のリーダーシップの
もと、学校が裁量性を発
揮

いじめ、体罰、不登校等への対応が求められる一方で、授業の充実と学力向上も求められるなど、複雑・多様な教育課題

学校経営課題

「授業準備」「成績処理」などの通常業務が時間外に
児童生徒と直接的にふれあう時間の減少

学校の自主性・自律性の確立を進める

学校の責任で判断し対応する事項の拡大を意味する

含んでいる

事務・教務の両面にわたる業務量の増大

こうした状況において有効な対応策

学校運営組織の見直しとしての効率的な事務処理体制の構築

＜学校内で唯一の行政職員である学校事務職員を中心として学校内の事務処理体制を確立＞

小中学校における事務職員の一人配置(それに伴う新採者、臨任の配置というケースも)
事務処理の効率化・標準化、職員の資質向上に対して十分な組織体制がとれない

以上のような課題意識から、佐賀県においては「公立学校事務の共同実施」が進められ、現在は全国的に見ても先進県の一つとなっている。本稿では、こうした事務の共同実施が県の教育施策として企画・実施されるまでの過程を明らかにするとともに、実施後明らかになった効果と今後に向けた課題について指摘する。

(本文より引用)



学校事務における「見える化」(3)

～ 「事務室がだんだん【見える】ようになってきたら・・・」 ～

前回に紹介した取り掛かりの他にも様々な工夫を凝らして「事務室の見える化」に取り組まれている学校もあるのではないのでしょうか。

学校の中で事務室の見える化が少しでも実感されるようになってきたら、一度、事務室メンバー全員で再確認をしましょう。『共通理解』もちゃんと「見える化」のポイントの一つです。



☆ 再確認をしましょう ☆



確認：1 作業手順（通常業務など）は、見えていますか？

普段の作業の手順はどうでしょうか？ 省ける無駄な動作はありませんでしたか？
タイムマネジメントにも繋がることですね。

確認：2 業務量は把握していますか？

「忙しい！忙しい！！」と言ってはいるものの、実際にはどれくらいの業務量なのでしょう
か？それぞれの業務にどれだけの時間が必要でしょうか？
ついでに、優先順位なども見直すといいですね。

確認：3 書類のチェックや作業の確認は？

不備がないように正確な確認（チェック）はできているのでしょうか？「最近、ちょっとした
ミスが多いんだよな・・・」と感じていたら、確認するときの「あまさ」がないか、どのよ
うなミスが多くて見落としているのか再確認をすることで、ミスを減らすことができます
ね。

確認：4 改善点は見えていますか？

まず、日頃から行なっている業務を見直し、改善対象となる業務を抜き出しましょう。それ
から、その業務の実態を関係者全員が把握し、全員でアイデアを出し改善に取り組んでいき
ましょう。

改善すべきポイントを正しく把握し、関係者を巻き込み、取り組む。改善点が見えたら、こ
の流れでいきたいものです。

ただし、周囲が始めたから、「見える化」に成功したからといって、焦って取り掛かる必要はありません。多忙な日々の中、無理をしても良質な「見える化」には繋がらないのです。取り掛かれるようになったら思い切って大々的に始めましょう！それまでは下準備として、時間が少し出来たら事務室の片付けや模様替えをするなどでも十分なのではないのでしょうか。

